

## 尺度使用マニュアル

### <尺度名>

改訂版対人場面におけるあいまいさへの非寛容尺度

### <測定概念>

本尺度は、信頼性と妥当性が不十分であった対人場面におけるあいまいさへの非寛容尺度（友野・橋本，2001）の改訂版であり，“他者との相互作用において生じるあいまいな事態を恐れの原因として知覚（解釈）する傾向”を測定するものである。自由記述調査の結果をもとにあいまいさを分類した上で項目が作成された点，あいまいさを3つの対人場面に限定した点などが，先行研究とは異なる本尺度独自の特徴である。

### <適用範囲>

大学生

本尺度は，大学生および短大生のみを調査対象者としたために，項目作成の過程において大学生独特の対人関係が反映している可能性がある。他の年齢層において使用する場合は，そのことを踏まえて実施すること（項目内容そのものは，他の年齢層においても適用可能であると思われる）。

### <尺度構成手続き>

はじめに，大学生59名を対象とした自由記述調査の結果，および改訂前の対人場面におけるあいまいさへの非寛容尺度（友野・橋本，2001）の項目をもとに予備尺度65項目を作成した。次に，大学生332名を対象とした調査を行い，確認的因子分析により本尺度の3つの下位尺度（初対面の関係におけるあいまいさへの非寛容，半見知りの関係におけるあいまいさへの非寛容，友人関係におけるあいまいさへの非寛容；計17項目）を構成した。その後大学生229名を対象に妥当性の検討，大学生83名を対象に再検査信頼性の検討をそれぞれ行った。なお，以上の調査は全て異なる標本で実施された。

### <信頼性>

内的整合性（ $\alpha$ 係数）：初対面の関係におけるあいまいさへの非寛容（ $\alpha=.77$ ），半見知りの関係におけるあいまいさへの非寛容（ $\alpha=.73$ ），友人関係におけるあいまいさへの非寛容（ $\alpha=.65$ ）

再検査信頼性（測定間隔3ヶ月の相関係数）：初対面の関係におけるあいまいさへの非寛容（ $r=.73$ ），半見知りの関係におけるあいまいさへの非寛容（ $r=.70$ ），友人関係におけるあいまいさへの非寛容（ $r=.66$ ）

<妥当性>

確認的因子分析：3 因子構造（適合度：GFI=.91, AGFI=.88, AIC=49.333）を確認した。

構成概念妥当性：毛利・丹野（2001）の状況別対人不安尺度（ $r=.29\sim.52$ ）および善明（1989）の独断主義尺度日本語版（ $r=.22\sim.30$ ）との間に有意な正の相関が認められた。

<採点方法>

「1. 全く同意しない」「2. かなり同意しない」「3. あまり同意しない」「4. どちらでもない」「5. やや同意する」「6. かなり同意する」「7. とても強く同意する」の 7 件法で各項目得点を求め、下位尺度ごとに合計したものをそれぞれ下位尺度得点とする。なお、一次元で用いる場合は全項目の得点を合計したものを尺度得点とする。

<尺度の使用について>

項目の改変は、行わない方が望ましい。研究目的によって改変した方がより適切であると判断される場合は、その旨を文中に明記すること。また、一つの下位尺度のみを使用することは可能ではあるが、全ての下位尺度を使用する方が望ましい。

（解釈方法）

各得点が高いほど、それぞれの対人場面で生じるあいまいさに“耐えられない”傾向であることを表しているのので、“耐えられる”という逆の解釈をしないように注意を要する。

（出典文献）

友野隆成・橋本 幸（2001）. 対人場面におけるあいまいさへの非寛容尺度作成の試み 同志社心理, **48**, 1-10.

友野隆成・橋本 幸（2005）. 改訂版対人場面におけるあいまいさへの非寛容尺度作成の試み パーソナリティ研究, **13**, 220-230.

<連絡先>

所属：同志社大学文学部心理学科嘱託講師

氏名：友野隆成

e-mail : tomono@psychology.doshisha.ac.jp

<無料・有料の別>

無料

<著作権関連情報>

研究目的で使用される場合は、出典を引用していただければ自由に使っていただいて構

わない。

(その他)

大学生以外を対象として本尺度を用いた場合は、結果をご一報いただくとありがたい。